

5 地域が主役

「自分たちのまちは自分たちでつくります」

国や県ばかり頼りにしては本当に住みよいまちづくりはできません。

今後、国や県は地域を重視した政策に転換し、権限もどんどん地方に下りてきます。

それを上手に使う、住みやすい地域を自分たちの手で作っていきましょう。

マニフェスト 20 市民活動推進センターを、総合支所単位に設置します。

- ・市民活動を普及、啓発し、市民一人ひとりを支援する場
 - ・市民一人ひとりが市民活動の情報を得ることができる場
 - ・市民活動団体の自立・成長を支援する場
 - ・市民、NPO・ボランティア、行政、企業等との協働を促進するためのネットワークづくりの場
- として、活発な市民活動の拠点として根付いた市民活動推進センター「くらら」の機能を全市的に展開するため、各総合支所単位に市民活動推進センターを設置します。

愛称は公募により決定します。

平成23年度までに、各総合支所単位に、市民活動推進センターを設置します。

マニフェスト 21 高齢者が楽しめるまちづくりを推進します。

高齢者の病気予防、悪化防止形介護への転換を図ります。

はつらつセンターやシルバー人材センター、シニア大学などの機能強化と、健康増進、体力維持や回復の拠点づくりを進め、高齢者が生きがいをもって楽しく生活できるまちづくりを推進します。



一人ひとりの状況にあった、運動支援、介護予防支援を充実させます。

マニフェスト 22 「自然との共生」を新生栃木市の将来都市像に据えて、「環境都市栃木」を全国に発信していきます。

新生栃木市は、自然環境に恵まれており、それを守り共生することが快適な市民生活の基礎となります。

栃木地区広域行政事務組合と連携しながら、ごみの減量化、バイオマスエネルギーの開発等に取り組むとともに、太陽光発電などの自然エネルギーの普及を積極的に支援していきます。

平成23年度までに、「環境都市栃木」を宣言します。

マニフェスト 23 歌麿研究を進め、「歌麿館」構想に着手します。

喜多川歌麿は江戸時代、栃木市内の豪商宅に滞在し、大作肉筆画「雪月花」など多数の作品を描きました。

そうした歌麿の足跡をたどるとともに、栃木に残した作品を検証するプロジェクトを立ち上げ、官民協働の下、将来のまちづくり、観光客誘客の目玉となる「歌麿館」建設構想に着手します。



平成20年に市内で発見された、歌麿の肉筆画「女達磨図」すぐに取り組みをはじめます。

このマニフェストに掲げた施策等を確実に実行するため、新生栃木市においても「都市経営計画」（総合計画と行政改革大綱、財政自立計画を一体的に整備した計画）をはじめとした各種の重要な基本計画を早急に策定します。